

秋田県手をつなぐ親たち

平成25年度～秋～

公益社団法人

秋田県手をつなぐ育成会

・発行人 谷内 和 夫

秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館3階

TEL 018-864-2718

HP <http://www.akita-ikuseikai.jp/>

第47号

第53回手をつなぐ育成会東北ブロック大会 及び 第55回手をつなぐ育成会秋田県大会特集



平成25年9月28日(土)・29日(日)秋田県民会館、秋田ビューホテル、秋田県総合保健センターを会場に東北各県の会員、関係者など900人の参加のもと、盛大に開催されました。手をつなぐ育成会東北ブロック協議会 中野信男会長並びに秋田県手をつなぐ育成会 谷内和夫会長のあいさつの後、功労者の表彰、御来賓を代表して、秋田県知事 佐竹敬久様、秋田市長の代理で副市長、鎌田 潔様から御祝辞をいただきました。その後、大会決議文、私たちの大会決議の採択が行われ、次期開催県となる青森県手をつなぐ育成会白土幸雄会長から、来年度の東北ブロック大会(平成26年9月20日・21日 青森県三沢市 小牧温泉)の紹介があり、式典を終了しました。

《 東北ブロック大会会長表彰 》

北秋田市 白川 文雄 様
秋田市 高橋 精一 様

《 秋田県知事表彰 》

秋田市 谷内 和夫 様 横手市 黒政 欣也 様
鹿角市 柳澤 恒子 様 湯沢市 富沢敬之助 様
大仙市 宇佐美シケ 様



代表受領の白川文雄さん



受賞者を代表の謝辞 白川文雄さん



秋田県手をつなぐ育成会会長表彰
代表受領の豊島弘子さん

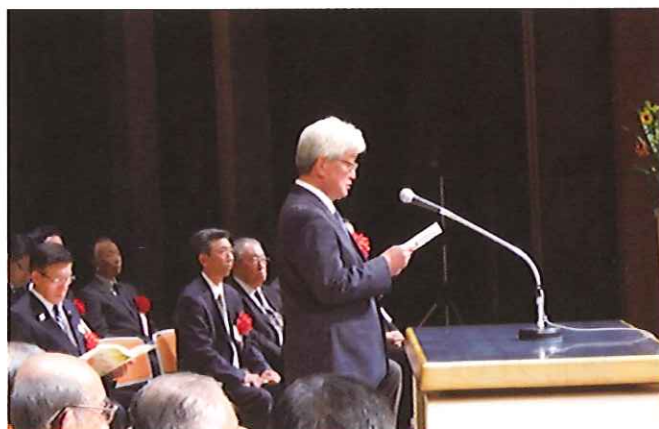
受賞おめでとう
ございました！

《 秋田県手をつなぐ育成会会長表彰 》

鹿角手をつなぐ親の会	山崎 明子 様
大館市手をつなぐ育成会	石岡 晴子 様
男鹿市手をつなぐ育成会	白幡 スエ 様
潟上市手をつなぐ育成会	外山 柳子 様
秋田市手をつなぐ育成会	豊島 弘子 様
大仙市手をつなぐ育成会	伊藤 ツサ 様
仙北市角館町手をつなぐ育成会	大渡 勲 様
横手市手をつなぐ育成会	熊谷 絹子 様
大日寮保護者会	秋元 雅晴 様
明成園保護者会	秋本アキ子 様
地域生活センターみずばやし保護者会	斎籾 徳正 様
秋田県心身障害者コロニー保護者会	高橋 章 様
愛仙にじ保護者会	森川 勇 様
大和更生園保護者会	畑 一男 様
やまばと園親の会	藤原 祐蔵 様



御来賓の祝辞
秋田県知事 佐竹敬久 様



御来賓の祝辞
秋田市副市長 鎌田 潔 様



大会決議文を朗読する
秋田市育成会 会長 高橋精一 さん



私たちの大会決議を読み上げる
本人大会実行委員長 佐藤武敏 さん

大会を終えて

秋田県手をつなぐ育成会 会長 谷内和夫

「心豊かに暮らせる共生社会をめざそう」の大会テーマで開催された、第53回手をつなぐ育成会東北ブロック大会及び第55回秋田県大会は、2日間にわたり好天に恵まれ、延べ九百人を超える参加者の下に滞りなく日程を終了しました。大会運営に当たっては、秋田市育成会員や関係の施設や養護学校職員の方々の協力を得て、準備の段階から当日の運営まで順調に進んだことを有り難く思います。

今大会は、障害者権利条約に関する国内法の整備を背景に、高齢化しつつある本人や家族を如何に支援するかという現実的な問題等について各分科会で熱心な協議がなされていました。

一方、アトラクション、交流会、本人分科会では他県の人たちに秋田らしい文化や風俗に触れ、楽しんでもらうことが出来ました。

本大会が、これからも時代のニーズを的確に捉え、内容と運営において更に改善されていくよう期待するものです。

第1分科会〈学齢児童生徒・保護者の地域支援〉の概要

秋田県手をつなぐ育成会 副会長 高橋精一

第1分科会は、参加申し込みが少なく、直前に秋田市内の特別支援学校保護者に参加を呼びかけましたが、32名と少人数の分科会となりました。

話題提供者からは、お仲間のお母さんが子どものことで、専門機関や行政に相談に行ったが、相談時間が少なく頼りにならなかった。結局同じ障害の子を持つ親の会が一番頼りになったということ、地域に自分の子供が障害を持っていることを知ってもらうことで、地域での共生が可能となること、特別支援学校の保護者の育成会会員が少なく、新規会員の掘り起こしには特別支援学校PTAとの連携が課題といったお話があり、人数が少ないわりには活発な意見交換が行われ、有意義な分科会でした。

第2分科会〈就労と地域生活支援〉の概要

秋田県手をつなぐ育成会 副会長 兎澤正文

第2分科会参加者は約80名で、分科会としては丁度良いぐらいでした。

話題提供者の吉田さん（青森市育成会）は、育成会会員としての立場と相談員としての立場から、親と子（本人）の心（内面）に入り込むためには、ネットワーク作りが重要だと話され、同じく話題提供者の渡部さん（秋田市・特例子会社）の話に対しては、東北ではまだ10社くらいしかない特例子会社の運営、特徴などについて参加者の関心が特に高かった。

助言者の鈴木さん（仙台市育成会・施設長）と吉田さん（岩手県・施設長）は、助言者というよりも話題提供者に近い発言になると言いながらも、経験に裏打ちされた適切な助言と随所に体験を交えた話をされた。

フロアからの質問も7つくらいありましたが、司会者は時間調整をしながら、質問内容を適宜にまとめて回答者に振り分け、的確な回答を引き出してくれたので、質問者だけでなく参加者もよく理解し、納得してくださったと思っています。

第3分科会〈高齢化に向けた地域支援〉の概要

秋田県手をつなぐ育成会 副会長 柴田貞二

第53回手をつなぐ育成会東北ブロック大会での第3分科会の世話人の役目を仰せ付けられました。議題は「高齢化に向けた生活支援」というテーマによる分科会、東北各県から200名の参加者を得て、4分科会では一番の参加者数を集めた会でありました。保護者の高齢化、利用者の高齢化に伴って一番に関心を持った分科会であったようです。

詳しい内容についてはテキストの36ページから39ページまで記載されています。二人の話題提供者は経験に基づいた諸事業での問題点、取り組み、課題、解決方法等のお話であったと記憶します。助言者についても話題提供者に対する問題点、解決方法等の事例をお話しながら最も良い方法が無いかを模索したお話であった。

出席者から書面による質問事項に対する質疑の時間に移ります。その内容は質問者が現在困っている点を具体的にお話され、その解決方法を聞きたいという課題が大半でした。例えば介護保険の適用にならない息子、娘の将来について親亡き後の病気等に対する心配等が大きな話題になったと思います。行政の力を頼る解決方法でもあり、我々育成会はどのようにして解決できるのか、今後取り組むべき大きな運動であると痛切に感じました。

第4分科会〈人権擁護の推進〉の概要

秋田県手をつなぐ育成会 理事 田中 勉

東北ブロック大会や全国大会の分科会に何度か参加して思うのは、話題提供者が、一生懸命に伝えたいという気持ちは、十二分に感じられますが、ある意味で空回りしている印象がありますし、助言者の

発言が、的を得ていたのかを思えば、何時も多少疑問が残ります。今回も結果的に参加された方の満足度が低かったのではと心配しております。

この分科会の形式が、このまま継承されるのであれば、まず、話題提供者の発表の形式を例えば、プレゼンで良く使う手法ですが、PREP法（Point要点、Reason理由、Example具体例、Point 結論を繰り返す）というように統一するとか、助言者は、その道の専門家を招請するとかを考えてみることも必要ではと感じております。

参加された方が、満足できるような分科会に変えて行く必要性和変えなければいけない時期に来ていると実感した分科会でした。

本人大会 第5分科会〈ほんにんかつどうをがんばる〉に参加して

秋田県手をつなぐ育成会 理事 高橋 博

今回初めて本人達の話し合いの場に参加させて頂きました。そして、その活発な意見交換に驚きました。これが私の第一印象です。

本人活動の先頭を切って頑張っているリーダーの姿に感動し、また、支援者が側面からサポートしている様子も伺えました。

それぞれの会の発足状況を観ると、コミュニケーション能力の有る本人達と、周りの支援者が必要性を感じてスタートしているようです。よって、一般就労やグループホーム利用者などは、移動範囲も広く活動内容も豊富なように思いました。

施設単体での場合は、自治会活動の一部が他の施設との共同体としての活動になり、地域内の対象者への考慮が薄れる可能性を秘めていると思います。その点、地域支援センターの様な、地域に密着した支援団体の方が多種多様な本人達を巻き込んだ活動が出来ていると感じました。

にかほ市の場合、施設通所と一般就労及び児童生徒が、日頃から活動する機会があるので本人活動にも参加していますが、入所施設やグループホームの場合は、場所が遠いのも影響し参加出来ないのが実情です。

それでも、身近な本人活動が、他の地域の本人会との交流で、その輪が大きくなれば良いのではと感じました。

本人大会 第6分科会〈ふれあいたいけん〉の概要

秋田県手をつなぐ育成会 理事 柏谷敏郎

「かんとうのふれあい」と「きりたんぼづくり」に挑戦しようをテーマに東北6県から約80名の本人大会参加者及び会員が秋田県総合保健センターにつどいました。

9時30分に近藤美奈子実行委員が、竿燈演技を披露してくれる秋田青年会議所の方々（若衆）と小中生（小若）の皆さん、ウェルビューいずみ障害福祉サービスセンターの皆さんをご紹介します、大会協力に謝辞をのべました。

そのあと、演技者でもある木曾ウェルビューいずみ支援員から竿燈の由来をわかりやすく話してもらい、10時にさわやかな秋晴れのもと正面玄関前で演技披露です。見事な小若の皆さんの妙技に感動し参加者全員と、通りかかった多くの方々が「ジョヤサー、ジョヤサー！」の大連呼でした。

本人大会の参加者が更に目を輝かせたのは、演技者に手を支えてもらいながら、車いすの方も含め本人会の皆さん全員が頑張って竿燈に挑戦していたときです。皆さんの一生の思い出となることでしょう。

11時からは「きりたんぼ鍋づくり」に挑戦です。とはいっても、秋田名物の味は素人がおいそれと出せるものではありません。味つけは、秋田市手をつなぐ育成会の豊島弘子さんや有志の方々が早くから仕込んでいてくれました。参加者の皆さんは、秋田米で香ばしく出来た筒状のきりたんぼを自分の手でちぎり器に入れるだけでしたが、だからこそ本場の本物の味を堪能でき、皆さんお腹いっぱい至福の時を過ごすことができたようです。

最後は大会に力を注いでくれた皆様と、会場づくりや清掃等にご協力いただいた学生ボランティアの方々に全員でお礼を述べ散会となりました。

本人大会 第7分科会〈しゃかいけんがく〉を終えて

秋田市手をつなぐ育成会 齊藤好行

第7分科会は、本人、支援者、世話人110人参加し、男鹿水族館GAOへバス3台で行きました。水族館は中が暗くて（エスカレーター等）で世話人が、事故に遭わないように声を掛けて本人達が楽しめるようにしていただきました。

本人達も白クマを見たり、数々の魚や貝等にふれ合って、館内で写真を撮ったり大変喜んでいました。

私たち世話人9人で100人の本人、支援者と短い時間でしたが声を掛け合って楽しんでいただいた時間は、心に残る時間と考えています。

また、世話人を引き受けていただきました、施設職員、秋田県立衛生看護学院生徒の皆様には改めてお礼を申し上げます

アルバム



大いなる秋田 大合唱
サンワーク六郷 合唱



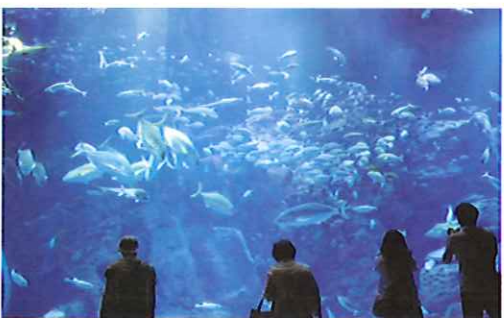
なまはげ太鼓
男鹿海洋高等学校なまはげ太鼓



きりたんぽ鍋作り
本人分科会



ふれあい竿燈 本人分科会



男鹿水族館 GAO 本人分科会 社会見学